

国内相場、各地で500円追随下げ広がる

国内鉄スクラップ相場は下期入りしてもなお、全国的に先安感が払拭されていない。中国や韓国が連休中のため今週の新規輸出商談は閑散とした状態で、値動きの変化も乏しい。だが、東京製鉄は4日から再び購入価格を500円引き下げるなど、これまでのところ国内相場は反転の兆しを見せていない。

国内では今週に入り「月替わりを経て荷動きは落ち着いている」(流通筋)との指摘が多く聞かれていた。新規輸出商談が事実上休止した状態にあるほか、週末には体育の日からむ連休が控えるため、今週はメーカーの購入価格引き下げは一服するのではとの見方も出ていた。

ところが東京製鉄は週半ばの3日、翌日からの購入価格引き下げを発表。これを受けて国内相場は4日から、各地で一段安が進むことになりそうだ。3日午後4時半の時点では、関東や関西で購入価格を追随して引き下げる動きが増えている。

3日時点で関東地区H2炉前渡しは23,500～24,000円中心、高値24,500円。月初であることに加え、台風の影響で配船スケジュールには遅れが生じており、関東域内の「荷動きは先週よりも落ちている」(流通筋)との指摘が聞かれた。

ただ、東鉄下げに対しては、朝日工業、伊藤製鉄所筑波工場、関東スチール、城南製鋼所、大三製鋼、東京鉄鋼、向山工場などの域内電炉が早くも4日からの500円下げを決めている。

中部地区のH2炉前渡しは3日時点で23,500～24,000円中心。新断ちの炉前価格にはバラツキが大きいものの、26,500～27,000円程度が多い。

名古屋港周辺の主要埠頭ヤード集荷価格は、3日時点でH2が23,000～23,500円中心。新断ちは中心値で26,500円程度。ともに炉前価格と比べて500円程度安く、同地区のFAS価格は東京湾岸とほぼ同水準を形成している。

中部地区では3日午後5時前の時点で、翌日からの値下げを発表した域内電炉は東京製鉄田原工場だけ。その他の域内電炉はひとまず下げを見送っているが、一方、湾岸シッパーではヤード買値500円引き下げを検討している向きが多く、港の集荷価格は目先、上記から500円続落する見通しだ。

大阪相場は3日時点でH2炉前渡しが24,000～24,500円中心、高値25,000円程度。市況は9月末から横ばい推移しているが、他地区と同様に、月替わりを経て「メーカー入荷は先週よりも落ちている」(流通筋)との指摘が聞かれる。

4日から大阪製鉄、岸和田製鋼、共英製鋼、新関西製鉄、住金スチール、中山鋼業などが一斉に主要品種500円(一部品種1,000円)下げを決めており、同地区のH2炉前渡し中心値も4日から500円下がることになりそうだ。